は松本源蔵、石母田四郎、谷藤弘治、監事は田沢重雄、永瀬圭寄。

第22回岩手芸術祭の審査員は金沢秀憲氏（東京写真大学教授）のもとで公開審査が行われた。これ以来写真部門の審査は公開審査が実施され、審査の過程など出品者の勉強の場としても評価されている。この年は二年後に岩手国体を控えて、「国体記録写真委員会」が結成され、その記録写真班員として会員50名余が委嘱された。

昭和44年（第23回岩手芸術祭）'69

会長は小野智保、副会長の西島達也が辞任し、沢野耕一郎と新たに松本源蔵が副会長に任命され、事務局長には柏原悌一に代わり、榊原悟が任命された。第23回岩手芸術祭の審査員は南波武英氏（フォートアート編集局長）川上重治氏（日本写真家協会会員）氏家正時氏（岩手日報写真部長）藤村富蔵氏（岩手放送美術製作部長）と多彩なメンバーであった。出品者118名、250点であった。

昭和45年（第24回岩手芸術祭）'70　岩手国体

役員の体制は小野会長以下変わらず。岩手国体の「証言」となる記録写真班として活躍した。第25回国民体育大会は岩手県始まって以来のビックイベントであり、県内各地で行われる数々のスポーツドラマを記録する「証言」として、県写真連盟は大きな役割を果たし、且つ貢献した。連盟の会員は各会場で大会の熱気をそのままキャッチしたほか、貴重な記録写真、決定的な写真を多く生み出した。これらの成果は、県写真連盟という組織があったからと言っても過言ではなかった、第24回岩手芸術祭は国体と重なったことから、国体美術展と併催となり、新装の合同庁舎別館を会場に大規模に繰り広げられ、芸術祭始まって以来の入場者を記録した。また、三笠宮殿下のご来臨も得た。審査員には桑原甲子雄氏（日本写真家協会）を迎えた。出品は210点であった。

昭和46年（第25回岩手芸術祭）'71

役員の体制は変わらず、事務局長が榊原悟から柏原悌一に代わった。岩手国体への協力に対して国体局より感謝状の贈呈があり、岩手国体写真集が発行された。第25回岩手芸術祭の審査員は伊藤逸平氏（写真評論家）氏家正時氏、藤村富蔵氏の公開審査であった。出品118人、250点であった。

昭和47年（第26回岩手芸術祭）'72

役員の体制は変わらず、この年第1回の盛岡市芸術祭が開催され、写真連盟として開催の協力を行った。第26回岩手芸術祭の審査員は塩原経央氏（写真評論家）、川上重治氏（日本写真協会会員）、氏家正時氏、藤村富蔵氏、小野智保氏であった。出品者108人、246点であった。

昭和48年（第27回岩手芸術祭）'73　県民会館

役員は再選された。第27回岩手芸術祭は、新装なった県民会館を初の会場としてはなばなしく開催された。「芸術祭大賞」が新たに設けられ論議を醸し出した年でもあった。審査員は田中雅夫氏（写真評論家）、氏家正時氏、藤村富蔵氏の三人で行われた。出品者は117人、129点であった。

昭和49年（第28回岩手芸術祭）'74

役員は留任、この年に電通コマーシャル写真部長を講師に写真教室を開催した。しかし以後全県対象の難しさから写真教室は行われなかっ